

## 教 育 文 化 委 員 会 記 録 (No.21)

1 日 時 令和6年3月21日(木)  
午前10時19分 開会  
午前11時37分 閉会

2 場 所 第4委員会室

### 3 出席委員(10人)

委 員 長	永 井 佑	副 委 員 長	森 結実子
委 員	宮 崎 吉 輝	委 員	中 村 義 雄
委 員	中 島 隆 治	委 員	木 下 幸 子
委 員	大久保 無 我	委 員	藤 沢 加 代
委 員	有 田 絵 里	委 員	大 石 仁 人

### 4 欠席委員(0人)

### 5 出席説明員

教 育 長	田 島 裕 美	教 育 次 長	高 橋 英 樹
総 務 部 長	小 杉 繁 樹	総 務 課 長	久 保 慶 司
企画調整課長	栗 原 健太郎		外 関 係 職 員

### 6 事務局職員

委員会担当係長 梅 林 莉 果 書 記 廣 池 和 哉

### 7 付議事件及び会議結果

番号	付 議 事 件	会 議 結 果
1	請願第15号 2024年度予算案における朝鮮学園助成金の削減について	継続審査とすることを決定した。

2	陳情第185号 福岡朝鮮学園の予算削減案の撤回について	不採択とすべきものと決定した。
3	請願第1号外27件について	別添請願・陳情一覧表のうち、陳情第185号を除く、別添請願・陳情一覧表の請願5件及び陳情23件について、閉会中継続審査の申出を行うことを決定した。
4	地域コミュニティの活性化について	調査結果について、別添報告書（案）のとおり取りまとめることを決定した。
5	観光・文化・スポーツの振興による都市ブランドの向上について	所管事務調査事件に追加することを決定した。
6	質の高い教育環境の整備について外1件	別添所管事務調査一覧表から取りまとめを行った1件を除き、追加を決定した1件を含め、閉会中継続調査の申出を行うことを決定した。

## 8 会議の経過

(請願第15号について文書表の朗読後、口頭陳情を受けた。)

(陳情第185号について文書表の朗読後、口頭陳情を受けた。)

○委員長（永井佑君） それでは、開会します。

本日は、請願・陳情の審査及び所管事務の調査を行います。

初めに、請願・陳情の審査を行います。

請願第15号、2024年度予算案における朝鮮学園助成金の削減について及び陳情第185号、福岡朝鮮学園の予算削減案の撤回については、いずれも令和6年度予算案における福岡朝鮮学園への助成金の削減に関するものであるため、2件を一括して議題とします。

本件について当局の説明を求めます。企画調整課長。

○企画調整課長 それでは、ただいま請願・陳情の趣旨をお伺いしましたので、福岡朝鮮学園の補助金削減の経緯と考え方を御説明いたします。

福岡朝鮮学園が運営する九州朝鮮初中高級学校は、学校教育法上の各種学校として認可されている私立の学校でございます。私立学校の所轄庁は福岡県知事でございます。補助金の交付については、基本的には所轄庁である福岡県において措置されるべきものと考えております。

市内の私立学校に対する北九州市の補助は、福岡県の補完措置として行っているところです。そのうち朝鮮学校につきましては、国際交流の推進と私立学校教育の振興を図るために、令和

元年度に高級部、いわゆる高等学校を対象に30万円の補助を開始いたしました。以後、時々の情勢に応じて額を増減させ、また、対象につきましても、幼稚班、初級、そして、中級、いわゆる幼稚園、小・中学校に拡大して、令和5年度には285万円の補助を行っております。

今年度、北九州市政変革の基本方針に基づきまして、全ての予算事務事業について、その存在意義や在り方などを点検することとなりました。その際の見直しの視点の一つといたしまして、同種の事業を実施するほかの地方公共団体の水準等に比べて上回っている場合には、その妥当性を検証し、十分な整理がなされない場合には水準や範囲を見直す必要があると示されたところです。そこで、政令市の私立学校と朝鮮学校への補助状況を改めて確認した結果、北九州市の1校当たりの補助額が政令市平均を大きく上回っておりますので、令和6年度から政令市平均レベルに補助額を約4割引き下げる私立学校と同様に、朝鮮学校についても4割削減するところでございます。朝鮮学校に対しましては、市内のほかの私立学校に対する補助と同様に、子供たちの教育環境を整備するという目的で補助を行っております。厳しい財政状況の中で、総合的に判断して今回の見直しを行うところでございます。

すみません、1点修正でございます。先ほど私、令和元年度と申しましたが、平成元年度に高級部の30万円の補助を開始しておりますので、訂正いたします。以上でございます。

**○委員長（永井佑君）** ただいまの説明に対し、質問、意見を受けます。なお、当局の答弁の際は、補職名をはっきりと述べ、指名を受けた後、簡潔、明瞭に答弁願います。質問、意見はありませんか。中村委員。

**○委員（中村義雄君）** 予算について賛成はするつもりですけど、もろ手を挙げて賛成するつもりがないので、意見と質問をします。口頭陳情にもあったように、この件は大きく2つ問題があると思っています。1つはタイミングです。事前協議もなく、2月中旬ぐらいに話をしたと。当然、朝鮮学校も次の年度の準備をしているわけで、これはこのことだけではなくて、今回の予算において一貫して言えることですけど、様々な体験とか、事業に影響すること、市民の生活に影響することを、意見も聞かずに遅いタイミングで言っている。これは非常に問題だと思います。私は、口頭陳情された方のおっしゃるとおりだと思いますので、これは強く反省してほしいと思います。ここは議会の附帯決議等でも上げるようにしていますが、今後の予算編成等を進める当たって、十分反省してほしいと思います。

これも口頭陳情でもありましたけど、もう一点の論点は、こどもまんなかとか次世代投資予算とか、皆さんが政策に優先順位をつけているわけですが、それにもかかわらず、お金がないからっていうので平等に見ているわけでしょう。それはおかしいでしょう。そうじゃなかったら、お金がないからできませんって言うのは言いなさんなって言いたいわけです。それは、朝鮮学校もそうだし、ほかの例えば、これは子ども家庭局と教育委員会の両方にあるけど、今回の予算特別委員会でも、子供が体験するようなことをばっさばっさと切っているわけですよ。今までやっていることを切っていて、こどもまんなかとか次世代投資の枠をつくるとか、完全

に矛盾しているじゃないですか。だから、お金がないからっていつ説明をするのなら、次世代投資枠とかどもまんなかcity宣言みたいなを取り下げたらどうですか。答弁をお願いします。

**○委員長（永井佑君）** 答弁はありますか。企画調整課長。

**○企画調整課長** こどもまんなかcity宣言を取り下げるかということにつきましては、すみません、私の所感ではなかなか申し上げづらいところもございますけれども、少なくとも教育委員会の範ちゅうで申し上げますと、今教育プランをつくっております、市長が示した教育大綱、これは今年度中に策定する予定でございますけれども、その中でこどもまんなかということをお願いしまして、多様で質の高い教育環境を整備するという方針を示し、今後も北九州市の教育施策はそれに基づいて行われていくものと認識しておりますので、教育委員会といたしましては、その大綱や今後定める教育プランに基づき、令和6年度、令和7年度に編成していく予算の中でそれを実現していきたいと考えております。以上でございます。

**○委員長（永井佑君）** 中村委員。

**○委員（中村義雄君）** ごめんなさい、確認ですけど、こどもまんなかというのは市長が言っているだけで教育委員会は言っていないんですか。それとも、教育委員会も同じ考えなんですか。

**○委員長（永井佑君）** 企画調整課長。

**○企画調整課長** 同じかと言われると同じでございます。今は案ですけど、市長が示した大綱に、こどもまんなかということが書いてありまして、教育委員会といたしましても大綱に基づいて今後施策を進めていくことになりまして、今後定めるプランについても、こどもまんなかというところを視点の基本に据えて定めていきたいとは考えております。以上でございます。

**○委員長（永井佑君）** 中村委員。

**○委員（中村義雄君）** だから、矛盾してないですか。こどもまんなか言っているのに、この間の市長質疑でも、市長はない袖は振れないとか言っていたけど、お金がないから政令市平均にしたんですよって、こどもまんなかなら、むしろ上げないといけないって話じゃないんですか。

**○委員長（永井佑君）** 教育長。

**○教育長** 今回の議会では、制度の関係が結構ございましたので、市長のことに私がお答えするわけにはいきませんが、ただ、今の教育の制度っていうのは、市長の考える、いわゆる教育の大きな方針は、教育委員会とも十分協議をして同じ方向を向くようにという、これは法律にもきちんとそう書かれておりますので、武内市長のこどもまんなかの教育方針を持ちたいというところは、私どももきっちり受け取って、今から1年をかけて、教育大綱に沿って教育プランをつくらうということになっております。そういう意味では、市長のおっしゃるこどもまんなかと私どもの考えていることは同じ方向を向いているということでございます。

冒頭に中村委員がおっしゃられましたが、相手方に対してのこういうお知らせがあまりにも

遅過ぎたのではないかということは、私どもも、市政変革推進室と苦しみながらいろんな予算編成をする中で、スケジュールに関しては、当初から早く相手方と調整したいということは望んでおりましたけれども、どうしても市政全体の中での今回の予算編成という流れがございましたもので、教育委員会としては最善を尽くしたつもりではあるということは申し上げておきたいと思えます。

ただ、教育という立場で、それぞれの学校が既に次年度のそういうふうな事業を計画されている時期であったということは、非常に心苦しく思っているところではございます。市政変革はこれからまた続くと思えますけれども、今後はいろんなところで、教育現場で子供たちを混乱に巻き込まないようにということに心を尽くしてまいりたいと考えております。

それと、予算の関係でございますが、こどもまんなかだから何でももらえるというようなものでは決してありません。市政変革の模様替え、棚卸しとして、教育委員会にも同じような形である程度のミッションが下りてきました。その予算の模様替えの中で、喫緊の課題をとにかく最優先で整理するというので、例えば給食費の物価高騰対策、あれも私どもの予算の枠でございます。それから、外壁の剥離、ああいうものの安全・安心ということも、全部教育委員会の予算の中で、何を最優先にするかという整理をしましたので、確かに一つ一つの予算は100万円単位かもしれませんが、110事業にわたる全ての事業を積み上げて、今回の削減の全体像をつくり上げたということが実態でございます。そこは御理解賜りたいと思えます。教育委員会も、何かをターゲットに絞り込んで予算編成をしたわけではございません。以上でございます。

**○委員長（永井佑君）** 中村委員。

**○委員（中村義雄君）** タイミングの話について、そちらが全力で急いでやられたということは理解しますが、相手があることなんです。皆さんの理屈は、それはそれで納得しますが、相手は相手で事情があるわけだから、役所が上から言っているような話にも聞こえるので、今年度は仕方ないので、今後は反省していただきたいと思えます。

ただ、物価高騰とか老朽化とかは当たり前にはないといけない話でしょう。だから、それはそれでいいんです。こどもまんなかとかを言っていなければそれでいいんですっていうことを私は申し上げているんです。今までよりも金額を落としておいて、何でこどもまんなかなんですか。普通のお金のやりくりの話じゃないですか。だから、こどもまんなかとかを言わないほうがいいんじゃないですかという気持ちにもなりますので、本当にこどもまんなかと言い続けるのであれば、北九州市はやっぱりよそとは違うというのを見せて初めてこどもまんなかでしょう。それはぜひ肝に銘じていただきたいと要望して、終わります。

**○委員長（永井佑君）** ほかに。大久保委員。

**○委員（大久保無我君）** 先ほどの答弁の中から1点お聞きしたいんですけども、補助金については、本来は県がすべきものであるというような御答弁でした。では、今市がつけている補助金に関しては、本来は市はしなくてもいいんだけど、あえてつけていましたよっていうような

ニュアンスとして捉えていいんでしょうか。

○委員長（永井佑君）企画調整課長。

○企画調整課長 本来は市がしなくてもいいのかというところですが、法律上のことをミリミリ申し上げますと、補助金を出す義務はないんですけれども、例えば朝鮮学校につきましては、昭和61年に請願が出されまして、昭和63年に全会一致で採択されたと、そうしたところから始まった経緯がございます。その後もいろいろ要望等をいただきながら、これまで積み上げた経緯というところを踏まえて、今福岡県の補完措置という形で補助を行っている状況でございます。以上でございます。

○委員長（永井佑君）大久保委員。

○委員（大久保無我君）市が出している分が政令市平均では高いほうだという話も言われていたんですけども、この話だけではなくて、こういう補助金に関して、他の政令市より高いものについては、今後全て政令市平均に持っていきこうという方向性だと捉えていいんですか。

○委員長（永井佑君）企画調整課長。

○企画調整課長 今回の政令市平均に合わせた理由というのは、市政変革で市全体の棚卸しが行われる中で、視点が6つ示されまして、その見直しの視点の一つが、ほかの地方公共団体が実施している事業と水準を比べて、高い場合には見直すようにという、もちろん必ずではないんですけれども、そういったものでございましたので、教育委員会といたしましては、そこも踏まえて、かつ、教育委員会として全体の予算編成も行わないといけませんので、そうした全体を含めて、政令市平均まで削減することが今回は妥当であると判断したところでございます。以上でございます。

○委員長（永井佑君）大久保委員。

○委員（大久保無我君）だから、今回棚卸しをして出されたものは、補助金も政策とかにしても、全部政令市平均に持っていきこうというような考え方をしていると捉えていいんですか。

○委員長（永井佑君）総務課長。

○総務課長 市政変革推進室からは、視点の一つとして示されているもので、その視点を生かして削減するかしないかというのは、教育委員会の予算全体の配分等を考える中での判断にはなるかとは思いますが、それも市政変革推進室等とのやり取りの中で決まっていくものかと思っております。以上です。

○委員長（永井佑君）大久保委員。

○委員（大久保無我君）ということは、これは政令市平均にしていこう、これは重点的にしていこうというようなことを局の中で決めていくという方向性なんですね。分かりました。

一応、うちの会派としての考え方を言います。中村委員がおっしゃったことにすごく同意するんですけども、朝鮮学校の話は私学助成金2,500万円の削減も含めた話と併せて考えていくべきなんだろうと思います。今日の口頭陳情者からも話があったとおり、方針を伝えた時期が本

当に次年度直前というところで、多くの私立学校も含めて困惑しているということを鑑みますと、あまりにも拙速な取組というか方針転換だと思えますし、関係者への説明が本当に十分だったのかなというところは疑念が残るところであります。そういう意味では、私たちは、朝鮮学校の補助金削減については十分に理解する立場でありますけども、この案件だけに限定するのではなくて、私学助成金の削減と同様に、教育、とりわけ子供たちに影響を及ぼすような予算の削減の在り方については、一定期間経過措置を設けるとか、関係者にしっかりと説明と意見を聞くような期間を設けるべきだったんじゃないかなと考えています。

ただ、歴史観には様々な見解があるわけです。うちの会派には様々な歴史観を持った人がいますので、この陳情に限定して採択するということになりますと、うちとしては、この歴史観のみを是認してしまうことになりかねないので、申し訳ないですが、この陳情に関しては、我々は受け入れられないという立場であります。以上です。

**○委員長（永井佑君）** ほかに。藤沢委員。

**○委員（藤沢加代君）** 私は、この請願・陳情に賛成の立場で質問をしたいと思えます。

今まで、本会議や予算特別委員会でも出てきた問題ですので、今日の答弁や皆さんの意見を聞きながら、最初に私の感想を改めて述べさせていただきたいと思えます。

先ほど中村委員や大久保委員からも話がありましたけれども、今回の予算の棚卸しについての出し方っていうのは、本当に大きな問題があると思えます。それで、教育長は、先ほど教育大綱にある市長の思いの中でやらなければならないというふうなことを言われましたけれども、予算特別委員会の中でも、市長と教育長はあえて並んで答弁をするわけですから、教育の立場から、また、子供たちの学びや発達や成長の立場から、教育委員会としてはどう考えるかということを中心に述べていただければなと思えます。先ほどから言われている私学助成金の削減も含めて、これは教育委員会として本当に厳しくつらい立場でやってきたんじゃないかなとは思いますが、だからあえてそこできちんと市長には言うべきじゃないかなと思えます。そして、私たち議員も市長に対してしっかりと物を言っていけないといけないと思えます。

それで、思い出したのが、もう10数年前になりますか、どなたかがどなたかに向けて発した、言っていることとやっていることが違うだろうという批判について、御記憶の方もいらっしゃるかと思えますけれども、ですから、今回の本当に市長のやり方っていうのは、強引過ぎるのではないかなと思えます。

それで、質問なんですけれども、もう何回も聞きましたけど、今回の予算削減は、他の政令市の平均より北九州市が高いレベルにあるから見直しを行ったということなんですよね。妥当性っていう言葉も出ましたし、総合的っていう言葉も出ましたけれども。それで、先ほどの口頭陳情の中で、具体的に神戸市の例などがありましたけど、北九州市は政令市の中でどのぐらいのレベルなのかっていうことをまずお尋ねしたいと思えます。そして、妥当性、総合的に考えてということで、今回、私学助成金と一緒にしたということなんですけれども、その辺につ

いてもう一度答弁いただきたいと思います。

**○委員長（永井佑君）** 企画調整課長。

**○企画調整課長** まず、政令市の中における北九州市の位置といいますか、どれぐらいのレベルにあるのかというところを御答弁申し上げます。

私立学校への私学助成と朝鮮学校助成の2種類があるんですけども、今回の削減につきましては、私立学校のほうを政令市平均まで削減するには、4割を削減するとちょうどレベルが合うということで、その4割という数字を朝鮮学校の削減にも当てはめたというところがございます。

では、私立学校への助成について、政令市はどういう状況かというところ、1校当たりの平均が317万円で、北九州市は525万円というのが令和5年度予算の話です。順位的には、北九州市は令和5年度予算で3位です。一番高いところが札幌市、2番目が静岡市、3番目が北九州市となっております。一番高い札幌市は、1校当たり540万円という状況でございます。

朝鮮学校につきましては政令市平均で削減しているわけではないんですけども、これも単純に1校当たりの額で比べてみますと、北九州市が一番高いところなんです。令和5年度は285万円、その次に高いところは札幌市でございます、1校当たり180万円ですので、100万円以上の差があるという状況にはあるというところなんです。

2点目、妥当性や総合性というところがございますけれども、教育委員会としましては、市政変革を行う中で棚卸しの視点が示されて、他の政令市との水準の比較というところで、今回朝鮮学校の削減の幅を決めたわけなんですけれども、先ほど教育長の答弁にもございましたけれども、教育委員会全体の予算編成を行う中で、例えば不登校ですとか、いじめですとか、老朽化対策、教職員の確保など、喫緊の課題が様々にある中で、総合的に見た上で、慎重に検討した結果、今回は削減を行うと判断した次第でございます。以上でございます。

**○委員長（永井佑君）** 藤沢委員。

**○委員（藤沢加代君）** 本会議でも、市長質疑の日も、教育長は今の課長と同じように答弁してきた中で、特に北九州市議会において全会一致で決議が上がったこととか、この間ずっと朝鮮学校の補助金を最初の30万円からアップしてきたというような経緯もあるわけです。それは、そこで行われている教育活動に対する敬意と評価だったと思うんです。それで、ほかの都市に比べると金額的に一番多いということなんです。それは北九州市の歴史や文化を踏まえた独自性を評価しているっていうことで、私は逆にとても誇っていいことだと思うんです。今度、市長が都市ブランド創造局ってあって、市民文化スポーツ局を衣替えるわけですけども、北九州市の都市ブランドっていうのは何かっていうことです。今回、門司港も出ていますけれども、八幡製鐵所のことも出ましたけれども、負の遺産もありますが、北九州市が本当に大陸に近く、そして、朝鮮半島とも近いから、私も何年か関わってきた城野遺跡から出た石棺の中には、中国から来たもの、朝鮮半島から来たものがあるって、北九州市は、太古の昔から、弥生



時代からずっと本当に関係が深いわけです。批判されるべき面も大変あるかと思いますが、そういう経緯も教育長はよく分かっているって答えてられましたよね。ここで、もう一回、よく分かっているという見解をお答えいただきたい。

**○委員長（永井佑君）** 教育長。

**○教育長** 予算の関係ですので、もう一度数字だけ申し上げさせていただきたいんですが、藤沢委員のおっしゃる経緯は私どもも十分認識しております。なので、単純に基準だけを当てはめて、政令市の平均に合わせるということでしたら、政令市の平均が116万円ですので、論理的には朝鮮学校は116万円という選択肢もなきにしもあらずでした。でも、私どもが今まで朝鮮学校を教育機関として非常に認識してきた経緯を考えますと、そうではなく、私立学校と同様に、北九州市の子供たちの教育機関として貢献していただいているというところで、6割から7割の削減とかではなく、私学助成と全く同列で4割削減を基準として当てはめさせていただいたところであります。

予算から離れた話として、朝鮮学校に関しましては、本当に教育機関として非常に重要視していますので、今から2～3年前、コロナのときに、ワクチンが足りなくて、せめてエッセンシャルワーカーだけでも先にワクチン接種をとったときに、教育機関として北九州市の公立の学校だけではなく、私立学校にもお声かけをさせていただいて、そのとき、エッセンシャルワーカーとして子供たちに接するというところで、朝鮮学校の先生方にも全く同レベルで優先的にお声かけをさせていただいて、私どもが窓口になってワクチン接種会場に案内したというケースもございます。それから、消毒関係とかも、私どもが窓口になるときは、私立学校と全く同様に扱わせていただいておりますので、精神面では非常に重要視しているというところは御理解賜りたいと思います。以上でございます。

**○委員長（永井佑君）** 藤沢委員。

**○委員（藤沢加代君）** その点は分かりました。

それで、本当に北九州市の歴史や文化から考えたときの独自性ってということでは、私は、在日の方が多いということも一つの特徴だと思っていて、小倉北区の外国人登録の窓口は特別にありますよね。ですから、私も北九州市に来たときに、本当に北九州市は大陸に近いんだなということを思いました。教科書や活字の上でしか知らなかったことが、ここでは自分でじかに体験できる、目の前にあるんだというふうな実感もしたところなんです。それに関連してお尋ねしたいのは、先ほど政令市の中でというところで名前が挙がりました札幌市、それから、神戸市には、在日の方がどれくらいいるか御存じですか。それと、北九州市も。私も事前に調べておけばよかったんですが、準備を怠りました。

**○委員長（永井佑君）** 企画調整課長。

**○企画調整課長** 大変申し訳ございませんが、その辺は把握しておりません。

**○委員長（永井佑君）** 藤沢委員。

**○委員（藤沢加代君）** 特に非常に近いってところが1つはあるかと思います。人口もあろうかと思いますが。大阪なんかも多いかなと思いますけど。それで、直接ここには関係ないかもしれませんが、近いというところでは、私は今北九州空港の特別委員会にも出ているんですけど、今度、スターフライヤーが韓国にチャーター便を40便飛ばすということで宣伝もしていますし、それから、この大手町かいわい、リバーウォークから小倉城というところで、インバウンドの中国や韓国からのお客さんをどれだけ歓迎して、どれだけ増えたかっていう宣伝をしているんですよ。そういうふうに韓国からたくさんのお客さんが来ている中で、こんなことができる神経がどうなのかなって本当に市長に聞きたいです。この間、本会議でも、それから、市長質疑のときでも、私は本来市長が答えるべきだと思ったのに、市長が予算削減について全部教育長に答えさせている。だから、私は、常任委員会かどこかで答弁者の違和感があると申し上げましたが、市長が市政変革で提案していなかったら、こんなことは起こらなかったわけですから、市長がそういう都合の悪いことを教育長の責任で教育長に全部答えさせて、本当にもうひきょうだなと思います。だから、教育長としては、教育大綱に基づいてやらないといけないということで従っている格好ですけども、それだったらグローバル化だとか、本当にそれこそ国際化だとかってというようなことはあまり言わないでほしいなど、それは市長に言うべきことなのでお答えは求めません。

それで、もう一つ、先ほどの答弁の中で、今回の朝鮮学校の予算削減については、私学助成と一緒に考えているということがありましたけど、それでいいのかなという疑問があります。というのは、今世界では軍事衝突とか戦争が起こっていますが、民族とか国籍とか関係なく、人類が仲よくしていかないといけないってことで、国連なんかでずっと課題として取り組んできたと思うんです。北九州市もその責任を果たさないといけないと思うんですが、私は法律の専門家ではないので、違法だとかそんなことは細かくは分かりませんが、先ほどのインバウンドなんかも考え合わせると、人種差別撤廃条約でちゃんと国や地方自治体の任務も定められているのに、私学助成とは違って、特別に朝鮮学校を差別すると受け取られかねないことになっているのではないかととても危惧します。安倍政権時代に朝鮮学校を高校の無償化の対象から外してきたってことは、本当に問題なので、今の国の立場を批判すべきだと思いますが、北九州市としては、今まで独自性を持ってきた、その立場をぜひ考えるべきだと思うんですが、いかがでしょうか。

**○委員長（永井佑君）** 企画調整課長。

**○企画調整課長** 今回の削減の措置が、人種差別撤廃条約のことであつたりとか、あるいは、特別に差別していると受け取られかねないのではないかという御指摘でございますけれども、これは繰り返しになりますけれども、教育委員会といたしましては、これまで朝鮮学校に補助を行ってくるに当たって、背景であつたりですとか様々な経緯というのを十分踏まえて、それを尊重しているからこそ、今そのほかの市内の私立学校と同様に補助を行っているというところ

ろでございます。そういったスタンスで行っているということをぜひ御理解いただければと思います。以上でございます。

**○委員長（永井佑君）** 教育次長。

**○教育次長** これまでの経緯の中でというお話を踏まえまして、北九州市は、これまで在日韓国、朝鮮人の子供たちに対しても、市内の学校の中に民族学級を設置してきたりした経緯もございます。また、各学校でも、総合的な学習の時間などの国際交流の時間などに、韓国の民族楽器の演奏とか、あるいは、国語の教科書を通じてつながった国際交流の事業を展開してきて、草の根で子供たちにもしっかりと教育を行ってきたということがございます。我々としては、そういう市の歴史を踏まえた上での学校教育は、これまでもしっかりとやってきたと考えております。以上でございます。

**○委員長（永井佑君）** 藤沢委員。

**○委員（藤沢加代君）** いろいろとお答えいただきましたけれども、教育委員会として、今回の請願・陳情や委員の意見なども十分に受け止めていただいて、今後も安易に市長の言うことを聞かないでほしいということを要望しておきたいと思っております。教育委員会の立場として、全ての子供たちに学ぶ権利を保障していく、そして、民族教育をしようという人たちの思いも大事にしながら、北九州市で育つ子供たちのことをぜひ考えていただきたいと思っております。

最初にも申し上げましたとおり、私たちは、今回の請願・陳情については、予算をもう一回見直すべきだという立場で、撤回してということに賛成しますけれども、全体的に言えば、今回教育委員会で予算をあちこちで見直さなければいけなかったことについては、胸中お察しします。私どもも、皆さんを応援して頑張っていただくという立場ですから、批判ばかりとか文句ばかり言っているように聞こえるかもしれないけど、そういうことじゃなくて、私は、教育委員会として本当に子供たちを尊重する立場で主張していただきたいということを申し上げて終わります。

**○委員長（永井佑君）** ほかに。宮崎委員。

**○委員（宮崎吉輝君）** 私からも意見だけ。今回口頭陳情がございましたが、中村委員も言われましたけれども、新しい市長が打ち出した大きな方針の中で、教育委員会に限らず様々な分野で市政変革に取り組まれています。この件だけに限らず、市民生活に直接影響があることに関しては、議会に対しても市民に対しても丁寧な説明が必要であるというのは、これはもう皆様方も御理解いただいていることだと思います。しかし、先ほど御説明がありましたように、私立学校に対しても朝鮮学校に対しても、説明があまりにも遅過ぎるというのは事実だと思います。多大な影響が方々に出ている。よって、こういった口頭陳情を受け、武内市長に対して独裁だという言葉もありました。説明が足りていないと市民から思われるとか、こういう言葉が出てくることは、私は北九州市にとってはよろしくないと思っております。先ほど大久保委員からも私立学校の話がありましたが、私も私立学校からそういう声もあると伺っております。変革は

大事なんだろうと思いますが、それに対しては、しっかりとした説明が絶対にセットだと思います。今回の件に関しても、請願の中には意見交換の場を設けろということがうたわれております。私は、この場が必要だと思っております。これまでの経緯、そして、これからです。議会からのこういった声もしっかりと受け止めていただいて、相手がおられますので、変革をするに当たって、市がやっていくことがこれまでと変わるならば、事前協議は必須でありますので、そこは市長の方針、市政変革推進室からのいろいろなオーダーがあるんだろうと思いますが、市民との直接の窓口の部分として、しっかりとそこら辺の条件については闘うべきだと思います。相手は相手でやらなきゃいけないことがある。しかし、こちらはこちらとして、しっかりと窓口としての責務というか、やるべきこととして、そこはしっかりと協議をしていただきたいと思います。皆さん方は、大きな影響が出るということをお断りの上で今回の決定をしたと思いますので、中村委員が言われたように、今年度はとは思いますが、今後こういったことが続くのであれば、我々、自民党会派としても容認できないということになってまいります。意見として、終わります。

**○委員長（永井佑君）** ほかに。中島委員。

**○委員（中島隆治君）** 政令市の水準に合わせたということでもございました。一定程度理解はするんですけども、先ほど来、委員の皆様がおっしゃっているとおり、2月にこの話があったってということで、いきなり38.5%の大幅な削減となると、当事者の人たちが口頭陳情にあったお声のとおりのお気持ちになることも理解できます。だからこそ、2月の時点でそういったお知らせをしないといけなかったのであれば、削減っていうことがあるのであれば、せめて令和6年度は経過措置という形でといった発想には至らなかったのかなっていうことを1点伺いたいと思います。

**○委員長（永井佑君）** 企画調整課長。

**○企画調整課長** 削減の幅と時期というところで御指摘いただきましたけれども、先ほども答弁したところでございますが、教育委員会といたしましては、この事業を検討のそ上に上げた当初の段階から、できるだけ早く説明しなければならないと認識はしていたところではございますけれども、棚卸しの検討結果の公表が2月13日になったというところで、その時期を待つて説明をしたということで、教育委員会としては最善を尽くしたと考えております。

削減の幅につきましても、政令市のレベルに合わせて4割減というところで令和6年度予算を編成したところでございまして、現時点で経過措置というものについては考えてはおりません。以上でございます。

**○委員長（永井佑君）** 中島委員。

**○委員（中島隆治君）** いきなり38.5%も削減されるとなると、やっぱりうんって思うところもあると思うので、経過措置とか、そういった考えに至らなかったってというのは、私個人としてはどうだったのかなと思います。そこは当事者の人たちの気持ちも酌み取って考えて、いろん

な事業に関してもそうだと思うんですけれども、いきなりどんという発表ではなくて、そういったことも踏まえて考えていただきたいなということをお願いして終わります。

**○委員長（永井佑君）** ほかに。大石委員。

**○委員（大石仁人君）** 説明の中で、平成元年度の30万円から徐々に上がって行って、去年が285万円と聞いていますけれども、それより前、例えば北九州市政が始まってから平成元年度までは20年間ぐらいあると思うんですけれども、それまではどういう形だったのでしょうか。

**○委員長（永井佑君）** 企画調整課長。

**○企画調整課長** 朝鮮学校に関しましては、それまでは補助というものは行っておりません。平成元年度がスタートでございます。以上でございます。

**○委員長（永井佑君）** 大石委員。

**○委員（大石仁人君）** ありがとうございます。今回110万円ほど削減して、170万円ちょっとになると思うんですけれども、それはいつ頃の水準と同じぐらいになるのでしょうか。

**○委員長（永井佑君）** 企画調整課長。

**○企画調整課長** 平成元年度に30万円からスタートいたしまして、そこから平成6年度に100万円に上がっております。その後、平成8年度に150万円、平成10年度に200万円となっておりますので、大体その辺のレベルになるというところでございます。以上でございます。

**○委員長（永井佑君）** 大石委員。

**○委員（大石仁人君）** ありがとうございます。これまでも県の管轄である朝鮮学校とか私立学校にも応援という意味で補助をしている。もちろん、それをどんどん続けていきたいという気持ちはあると思うんですけれども、資金が潤沢にあれば、それはどんどんしていただきたいなと僕も思うんですけれども、それでは北九州市の未来が衰退してしまうということで、心を痛めながらも市全体で財政を切り詰めながらシェイプアップして、何とか持続可能な発展ができるよということ、今回市政変革をしていると僕は思っております。もちろん、皆さんも誰も悪者になりたくないの、削りたくないっていう気持ちだと思います。その中で、心を痛めながら、何とか優先順位をつけて今回こういった予算になっているというのは重々理解しております。予算がない中で優先順位をつけるとすれば、北九州市立の小・中学校の中でも、全然まだ足りていない。先ほど教育長がおっしゃいましたけれども、正直、私から見ても、外壁の補修とか、そういった子供の安心・安全を守るためのお金、それだけじゃなくて子供たちのサポートをするスタッフも足りていない、教員も足りていない、教育の質も上げないといけない、そこにはまだまだお金が必要だと思います。お金がない中でも、優先順位をつけて、こういう形でやるというのは、心は痛みますけれども仕方がないことかなと思う中で、先ほどこどもまんなかの話が出ていましたけれども、こどもまんなかcity宣言っていうのは、これからのビジョンであると私も考えていまして、今回の予算は来年度の1年間の予算であると思っております。ですので、今回だけじゃなくて、これから教育委員会、市全体がこどもまんなかcityに向

けて今後どうするのかというところに私は期待しております。以上です。

**○委員長（永井佑君）** ほかに。有田委員。

**○委員（有田絵里君）** 今回は、意見と要望だけお伝えさせていただきます。

今回の朝鮮学校の補助金を110万円減らすことに関しては、日本維新の会としては賛成の立場で御意見させていただきたいんですけども、そもそも子供たちの将来への徹底した投資が必要だと考えています。私たちは、給食費の無償化とか、バウチャー制度、あと学校設備の、今回でしたら特別教室のエアコンのこととか、あとここの所管じゃないですけど病児保育のこととか、子育ての様々なことに対して今後も必要なことを訴えていきたいと考えています。今回は、単純に私学助成と朝鮮学校への助成金が減るっていうことになっていきますけれども、今大石委員がおっしゃったとおり、北九州市は財政難だと言われている状況です。税金があふれるほど幾らでもあるわけではないということで、切り詰めてやっていかないといけない。その中で予算事務事業の棚卸しを行って、今回は助成金が減ることになってしまったので、子供たちへの投資が減るように思いますけれども、単純にそうではないと私たちは考えています。減らされたお金は、子供たちへの投資として喫緊の課題に直接回していくんだというお話だったので、私はそうなんだろうなと思っています。そのためにも、一旦は政令市平均に合わせることで公平性をきちんと出した上で、来年度以降どうしてもこの助成金がないと例えば学校が潰れてしまうとか運営ができないということであれば、改めて今後検討していく必要があると考えています。

ただ、ほかの委員の皆さんもおっしゃっていたとおり、様々な経緯の事前説明が必要だったっていうことに関しては、今回の棚卸しをするに当たって課題として多く出てきていると私も思っておりますので、今後は丁寧な説明を行っていくように要望したいと思いますし、これは私も一般質問をさせていただきましたけれども、例えば大阪府には、予算編成過程公表サイトっていうのがあります。御覧になったことがあるかと思うんですけども、この内容であれば、管理事業名だとか、あとは課長とか部長とか皆様方が一つ一つの事業を確認する際に、どういう理由でどう減らしたか増やしたかっていうのが、一個ずつ、例えば11月時点とか10月時点で既に見られるようになっていきます。そうすれば、今回のような、2月になって、直前になって突然減らされたとか増やされたということがないんだと思うんです。今の北九州市のシステム自体、予算編成をするに当たっての過程自体が、もう今の時代に合っていないんじゃないかなと私は思います。今後予算編成をするに当たっては、以前一般質問をさせていただいた予算編成の過程っていうのを、教育委員会のみならずほかのところもしっかりと事前に出して、市民の皆様方へ見える化していくべきだと私は考えておりますので、ここに関しては、教育委員会のみならず、市に対して訴えさせていただければと思います。今後も日本維新の会としては、これだけに関わらず、子供への投資を直接、広くきちんと行っていただくように訴えさせていただきたいと思います。これは意見です。以上です。

○委員長（永井佑君）ほかに。木下委員。

○委員（木下幸子君）先ほどから本当にいろんな意見が出ていて、私も納得するところと、もう一步寄り添っていただくような、そういう状況が生まれればよかったのになっていうところがあります。1つ質問なんですけど、平成元年度に30万円から始まって、次々と予算が上がってきていますけど、どういう経緯で285万円まで上がっていったのか、教えてください。

○委員長（永井佑君）企画調整課長。

○企画調整課長 補助額が上がっていった経緯というところでございます。これにつきましては、そもそもこの補助は、全会一致での請願採択というところから始まりまして、その後、市議会の中で、朝鮮学校の地位向上に対する決議というのが賛成多数でなされたりですとか、あるいは、朝鮮学校側から金額アップの要望がなされたりですとか、そういったことが積み重なる中で増えていったという経緯がございます。以上でございます。

○委員長（永井佑君）木下委員。

○委員（木下幸子君）その経緯の中では、他都市の平均とか他都市の状況等を鑑みるっていうことは発生しなくて、朝鮮学校からの直接の要望とか議会の決議とかで決まっていたのでしょうか。そのときは、他都市は見なかったのでしょうか。

○委員長（永井佑君）企画調整課長。

○企画調整課長 当時、他都市の状況をどこまで調べていたかというところは、申し訳ありません、現時点では私はそこまでは把握しておりませんが、大体こういう補助金の額を検討する際は、他都市の状況というのは調べた上で、北九州市ではどうするかというところを判断するのが通常ではないかと考えます。以上でございます。

○委員長（永井佑君）木下委員。

○委員（木下幸子君）周りも見ながらっていうところだとは思いますが、先ほどからもう何人もの委員が言われていますが、市政変革で去年の秋ぐらいから予算の検討が始まったと聞いておりますが、本当に見直しが入るとき、変わるときってというのは、説明とか意見交換とか、そういうのが必要だと私は思っております。ましてや、朝鮮学校の減額は4割に近いという、本当に厳しい削減の状況だということ、当事者の皆さんの気持ちも本当に分かるころであります、それを遂行していかないといけない教育委員会も本当に心苦しいというか、かなりの英断というか、そういう判断だったと思います。繰り返しですが、ぎりぎりになって突然にかなり厳しい減額を告げられた朝鮮学校の皆様のことを例にして、本当に事前に状況とかを把握して、寄り添った意見交換とかをすることも必要じゃなかったかと思うことと、今後はこういうことはないようにしていただきたい。そして、ましてや子供のことでありますので、本市が子育てしやすい町、また、こどもまんなかcityを宣言している限りは、できるだけ子供の教育に影響が出ないような、そういう予算の判断もしていただきたいと思っております。そういうことで、意見を言わせていただきます。以上です。

○委員長（永井佑君）ほかに。大久保委員。

○委員（大久保無我君）すみません、先ほどのやり取りの中でちょっと気になったことがあったので教えていただきたいんですけども、委員から、予算を削って優先順位をつけていかなければ北九州市の未来が衰退してしまうという意見が出たんですけども、棚卸しによる予算の見直しというのは、優先順位をつけて出した結果と捉えていいんですか。

○委員長（永井佑君）総務課長。

○総務課長 そう捉えていただいて結構だと思います。全体の予算の中で、何が大切かというのは、もちろん各局いろいろあるかと思いますが、教育委員会の中では、先ほど来申し上げていますが、外壁落下とか、そういう子供の命に関わるような部分については、優先順位が必然的に高くなりますので、そういうものは棚卸しの対象事業とはしておりません。あと管理経費ですか、いわゆる各課の生活費というか、そういうものは削れないので、そういうものは対象外としております。以上でございます。

○委員長（永井佑君）大久保委員。

○委員（大久保無我君）棚卸しで予算が削られていったものは、優先順位としては高くないというか、相対的に削られても仕方がないというような認識であると受け止めました。

財政難という話なんですけども、北九州市は、コロナ禍を除けば過去最大の予算編成をしています。コロナ禍を含めれば、過去2番目というような予算編成ができるような状態ですよ。国の指標を基に北九州市の財政状況を見ると、北九州市が財政的に危ないってというような指標は何ひとつ出てこないんです。つまり、北九州市は財政難かということ、財政は厳しいかもしれないけど、財政難ではないという認識をまずは持たないといけないと思うんです。当たり前ですけど、認識が違えばやることが変わりますよね。むしろ、今年の予算編成では市債も増えていますので、北九州市の財政状況は悪化していると私は見えています。予算を出しているのは市長なので、教育委員会に言ってもしょうがないんですけども、教育にお金を使わずに、そのお金を削ってまで一体何をしたいのかなっていうことを今回の予算編成では強く思いましたし、先ほどからの意見にもありますように、こどもまんなかcityっていうんだったら、子育て関係については、なるべく予算は拡充していくような流れになっていくのが当然なんだろうと思います。前提が財政難とかという話になってくると、それは削っていかなきゃいけないんでしょうけども、財政難ではないと。財政は豊かではないけども、財政難ではないという状況にあるというのが私は正しい見解だと思いますので、その状況について、私は、議員としては、正しい指標に基づいた正しい財政状況、財政認識みたいなものを持たないといけないのかなと思います。でないと、打つ施策、考えていくべき施策っていうのを間違えていくんじゃないかなということ強く思いました。ごめんなさい、教育委員会にこういうことを言ってもしょうがない話だとは思いますが、意見として言わせていただきます。以上です。

○委員長（永井佑君）ここで副委員長と交代します。



(委員長と副委員長が交代)

○副委員長（森結実子君）永井委員。

○委員（永井佑君）僕からも何点か伺います。教育委員会から、平成元年度に30万円から補助が始まり、それが何に使われてきたのか、北九州市が朝鮮学校やその周囲の方々に対してどういう教育を進めてきたのかっていうこれまでの歴史や経緯を語っていただいたと思います。市長は本会議答弁とかでも、人に好かれる改革はないと、北九州市が反転攻勢していくためには、北九州市のポテンシャルを生かせるようにとよく言われていますが、市長が見ているポテンシャルっていうのは、僕は全く違うものだと思います。先ほど大久保委員も言われましたけど、認識が変わればやることは違うということが予算削減に表れているんじゃないかなと思います。本市の教育委員会が今まで地域の方々と積み上げられてきた歴史とか経緯について、これは大事なポテンシャルだと思いますが、その予算を削減するという点に関して、命に関わることより優先順位は低いかもしれないという答弁がありました。教育委員会として、市長、朝鮮学校の助成金っていうものはこういうものですよっていう対話はされているんですか。その点について聞かせてください。

○副委員長（森結実子君）企画調整課長。

○企画調整課長 今回の棚卸しの検討を行う経過の中で、市長と協議する機会というのもございまして、その中で朝鮮学校に関する経緯ですとか、あるいは、現状、補助金の在り方というところは教育委員会から御説明はしたところでございます。以上でございます。

○副委員長（森結実子君）永井委員。

○委員（永井佑君）どこまでおっしゃっていただけるか分からないんですけど、その話をしたときに市長はどういう捉え方をされたんですか。

○副委員長（森結実子君）企画調整課長。

○企画調整課長 我々が説明した内容は理解したと。つまり、経緯とか、あるいは、補助金の考え方ですね。その上で市政変革、棚卸しで示した共通の考え方に従って検討を行っていくべきだという、そういった協議の結果になったと認識しております。以上でございます。

○副委員長（森結実子君）永井委員。

○委員（永井佑君）分かりました。そういう市長と教育委員会との対話の中で、先ほど私たちに答弁いただいたような議論をされているということだったと思います。でも、人に好かれる改革はないと言っている市長ですから、それを今回予算に上げてきたんだろという思いがしています。皆さんの議論をいろいろと聞いていて、これで次世代への投資と言えるのかというのは私も強く思いますし、今日もたくさん傍聴に来られていますけど、市長がやりたいことを優先して、そのしわ寄せなり我慢を市民に対して強いることになっているということが、今日の5,168名の方の署名にも表れていると思いますし、署名をされている方の住所が書かれていたので見ましたが、これは北九州市だけの問題ではないです。この補助金カットによって、子

供たちにどのような負担が強いられていくのかっていうのも、これから大きく出てくる問題ですよね。先ほど北九州市外の方の署名の話もしましたが、本市が削減することによって、まず平均が下がりますよね。平均が下がれば、今後それぞれも下がっていくんじゃないですか。その可能性は大いにあると思います。私は、どんどん下がる悪循環を北九州市が率先してやっていくんじゃないかっていう懸念を強く持っています。ただ、教育長からも今までの歴史、経緯を述べていただきましたから、その経緯と周りに波及する効果っていうのは、教育委員会としては本意ではないんじゃないかなと。他都市まで広がってしまうことは、本意ではないんじゃないかなと私は考えます。しかも、国連の人種差別撤廃委員会も、日本政府に対していろいろと勧告も出していますよね。今日の請願の中にもありますけど、どのような負担が出るのか、今までは十分に聞き取りをできていなかったということなので、予算の削減に関わりなく、早急に朝鮮学校に対する補助金についてとか、学校運営に関して意見交換の場を設けていただくべきだと思います。これについて、答弁をお願いします。

**○副委員長（森結実子君）** 企画調整課長。

**○企画調整課長** 意見交換の場でございますけれども、我々といたしましても、朝鮮学校の方々の理解を得るというのは非常に重要だと考えております。2月13日に直接お伺いした際にも、いろいろと御意見をいただいたところでございますし、今後こうした機会もございましたし、要望書も頂いておりますので、コミュニケーションというのを密に取って、相手方の思いというのをしっかり聞き取ってまいりたいと考えております。以上でございます。

**○委員（永井佑君）** 早急に行ってください。私からは以上です。

**○副委員長（森結実子君）** ここで委員長と交代します。

（副委員長と委員長が交代）

**○委員長（永井佑君）** ほかになければ、まず請願第15号については慎重審議のため、本日は継続審査としたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり。）

御異議なしと認め、そのように決定しました。

次に、陳情第185号について採決したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり。）

御異議なしと認め、これより採決を行います。

陳情第185号について採択すべきものと決定することに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

賛成少数であります。よって、陳情第185号については不採択とすべきものと決定しました。

次に、お手元配付の一覧表記載の請願・陳情のうち、ただいま採決した陳情第185号を除く請願5件、陳情23件については、いずれも閉会中継続審査の申出を行うことに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり。)

御異議なしと認め、そのように決定しました。

以上で請願・陳情の審査を終わります。

ここで執行部は退室願います。

(執行部退室)

次に、所管事務の調査を行います。

まず、地域コミュニティの活性化についてを議題とします。

本日は、本件について取りまとめを行いたいと思います。

正副委員長において作成した報告書案をお手元に配付しております。この報告書案について、御意見はありませんか。

(「なし」の声あり。)

それでは、本案をもって本委員会の報告書としたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり。)

御異議なしと認め、そのように決定しました。

次に、調査事件の追加を議題とします。市長から提出されている事務分掌条例の改正案が25日の本会議で可決され、それに伴い委員会条例が改正された場合、本委員会の所管が変更になるため、調査事件を追加してはどうかというものでございます。新たな調査事件の選定について、事前に皆様からいただいた項目を取りまとめてお手元に配付しております。本年12月定例会までの短い調査期間となりますので、1項目だけの追加にしたいと思います。これらの案について意見を伺いたいと思います。意見はありませんか。宮崎委員。

**○委員（宮崎吉輝君）** 提案させていただいたので御説明したいと思います。

このタイミングで所管が変わると非常にイレギュラーな形で、残された時間もあまりないので、全く取り上げていないものをいきなり全てやるとなると難しいと思いますので、これまでも市民文化スポーツ局で取り扱ってきた部分である文化、スポーツというのは扱いやすいのかなど。そこに新しく入ってくる観光という部分を加えて複合的な内容で取り組めば、残された時間の中で、これまでの経験も生かして、所管事務としては取り組みやすいのではないかと、我が会派として提案させていただきました。

**○委員長（永井佑君）** ほかにありませんか。

では、意見がスムーズにまとまっているので、観光・文化・スポーツの振興による都市ブランドの向上についてを調査事件に追加したいと思います。よろしいですか。

(「異議なし」の声あり。)

御異議なしと認め、そのように決定しました。

次に、お手元配付の一覧表記載の事件のうち、ただいま報告書の取りまとめを行った地域コ

コミュニティーの活性化についてを除き、観光・文化・スポーツの振興による都市ブランドの向上についてを追加した上で、次の定例会までの間、調査を行うこととし、閉会中継続調査の申出を行いたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり。)

御異議なしと認め、そのように決定しました。

以上で所管事務の調査を終わります。

ほかになければ、本日は以上で閉会します。

---

教育文化委員会	委員長	永井	佑	㊟
	副委員長	森	結実子	㊟